

軽費老人ホームにおける BCPの役割と必要性について

●愛生苑ケアハウス 施設長 平出 肇

愛生苑でのBCP策定に至る背景

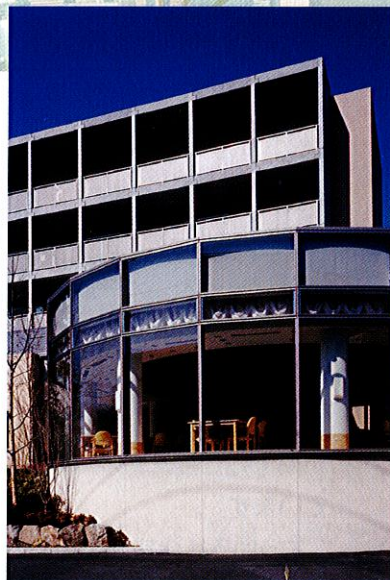
愛生苑ケアハウスは平成9年4月に特別養護老人ホーム80床と合築でオープンしました。特養ホームの定員80名に対してケアハウスは16名と小規模なため、基本的には特養ホームと一体的な経営を行っています。

さて、昨今では東日本大震災や異常気象による風水害・土砂災害・雪害など、未曾有の災害によって施設経営が窮地に立たされる場面が度々発生しております。こうした状況下でも社会福祉施設は利用者の方々が安全かつ安心して生活を続けられるよう、また地域の要援護者や帰宅困難者受入も含めて継続的にサービスを実施しなければなりません。非常事態の中でいかなる手法に基づいて事業を継続して行くかについて、事前に検討・計画することが、施設経営にとって非常に重要なファクターとなります。

愛生苑ではこれらを踏まえ、特養ホーム・ケアハウスを含めた施設全体でのBCP※を策定しました。

ケアハウスにおけるBCPの必要性

同一建物内の施設であっても、特養ホーム利用者と自立型のケアハウスでは利用者の特性が違うことを考慮した災害時対応を行わねばなりません。これらの視点を踏まえ、施設全体におけるBCPを見直し、ケアハウスの特性を盛り込んだBCPに改定する作業を



現在進行形で行っています。このBCPの改訂にあたっては、東日本大震災での事例を教訓に、利用者の方々からのご意見も参考に進めることとしました。

まず、災害発生時に安心して居室フロア4階に留まっていたくために、防災備蓄品を整備しました。内容は1日分の非常食、水分、懐中電灯、簡易トイレ、防災頭巾等で、これらをリュックサックに入れた状態で全戸数に配備しました（写真参照）。

次に施設設備面では非常用自家発電装置が消防用に限定されているため、停電時対策として非常用LED※ライトを全居室に設置、非常用階段には簡易照明器具を配置（電源は小型ポータブル発電機）、水関係では地上部の受水槽下部に蛇口を設置、現在これらの条件によりBCPの改訂作業を行っております。

今後の課題

改訂後は、BCPに基づいた訓練や地域合同防災訓練、自治体との連携等を踏まえて更なるブラッシュアップを図りたいと考えています。そして施設経営理念である「愛と共生」、利用者の方々、家族の皆様、地域の皆様、職員等、かかわるすべての人々が安全・安心で快適に暮らしを続けて行けるよう努力してまいります。

※BCPとは…事業継続計画（Business continuity planning）の略。地震や事故に備え、被害を最小限に抑え、必要な業務が継続できるよう、事前に定める計画のこと

※LEDとは…発光ダイオードの略